

積雪や凍結路面に係る救急事故に注意！

毎年12月から3月までの期間に、積雪や凍結路面により滑って転倒するなどの救急事故が多くなります。

平成26年12月から平成27年¹⁾3月では、積雪が少なかったものの、東京消防庁管内²⁾で106人が救急搬送されました。



1) 平成27年は暫定値

2) 東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

積雪や凍結路面での救急事故を防ぐために

- ・靴は滑りにくいものを選びましょう。
- ・足元に十分気を配りゆっくりと歩きましょう。
- ・降雪後の数日間、事故が多いことから、特に注意を払いましょう。
- ・残雪や凍結路面を避け、余裕を持って行動しましょう。

1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

積雪の多かった平成25年12月から平成26年3月が、過去4年間で、最も多く救急搬送されました（図1）。

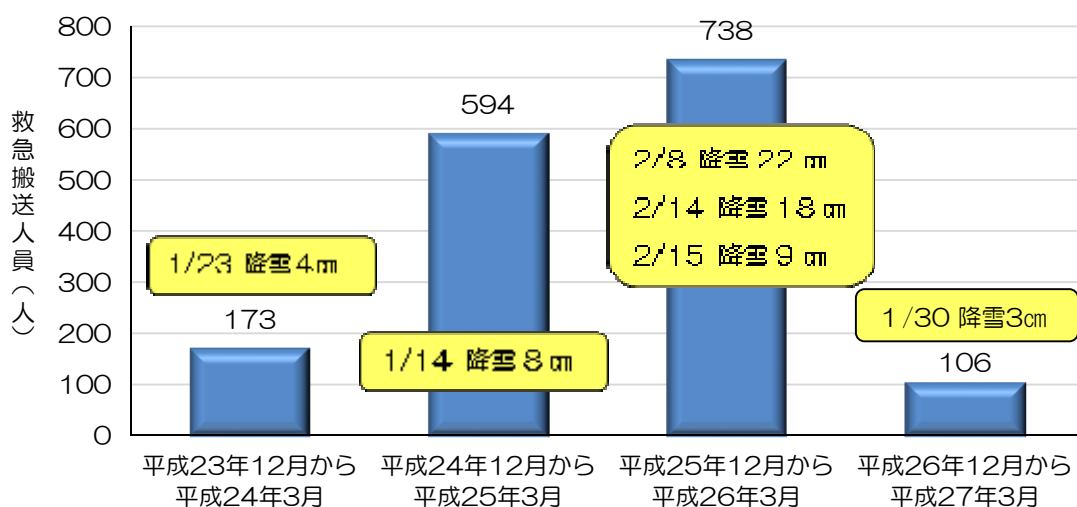


図1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

2 月別の発生状況

平成26年12月から平成27年3月の月別搬送人員は、1月が59人、2月が33人でした。搬送人員が最も多かったのは、平成26年2月の713人でした（表1）。

表1 月別の救急搬送人員（人）

	12月	1月	2月	3月	合計
平成23年12月から平成24年3月	4	147	20	2	173
平成24年12月から平成25年3月	0	585	9	0	594
平成25年12月から平成26年3月	9	9	713	7	738
平成26年12月から平成27年3月	13	59	33	1	106

3 気象状況との関係

救急搬送人員の最も多かった平成26年2月について、気象状況³⁾と救急搬送人員の関係をみると、8日、14日、15日に降雪があり、2月だけで713人が搬送されました。例年、降雪のあった翌日に最も多く搬送されますが、平成26年2月は、降雪の翌日が土曜日や日曜日であったため、降雪日より多くはなりませんでした（図2）。

3) 気象庁の気象統計情報の東京で観測・測定した数値を使用

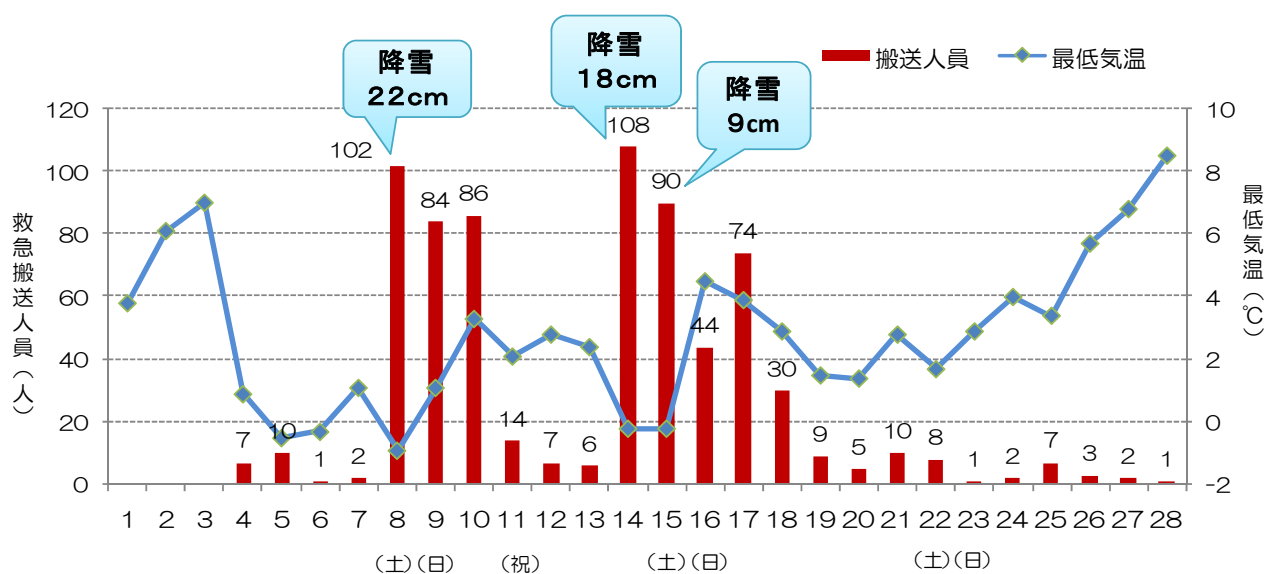


図2 気象状況と救急搬送人員（平成26年2月）

4 年齢層別の発生状況

年齢層(5歳単位)別にみると、65歳から69歳が最も多く搬送されています(図4)。

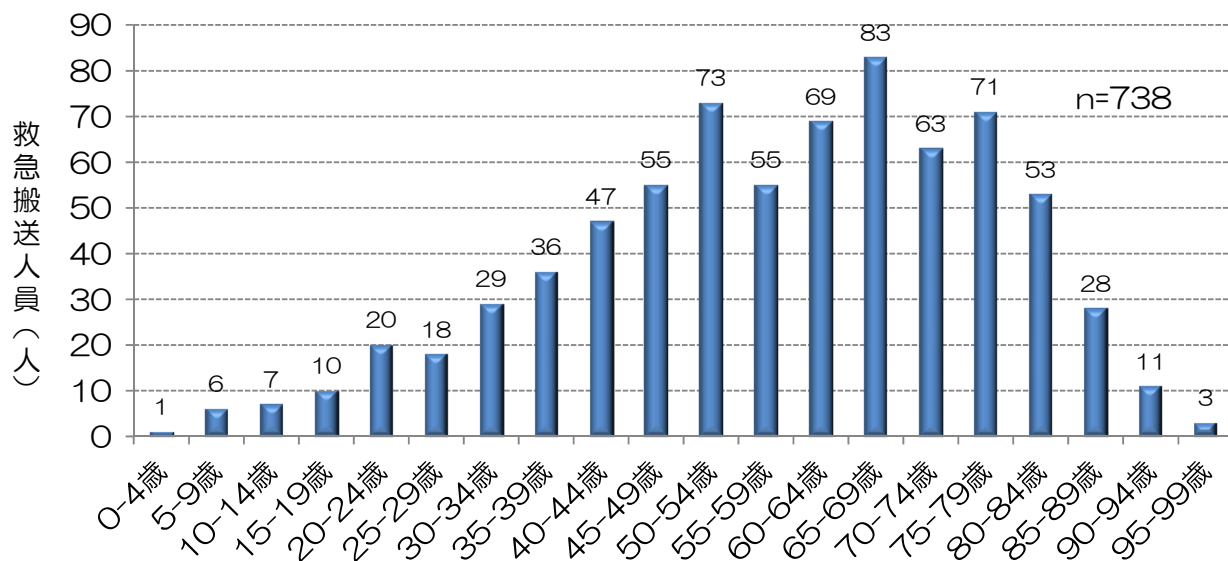


図4 年齢層別発生状況(平成25年12月から平成26年3月)

5 初診時程度

初診時程度をみると、約半数が中等症以上と診断されました(図5)。

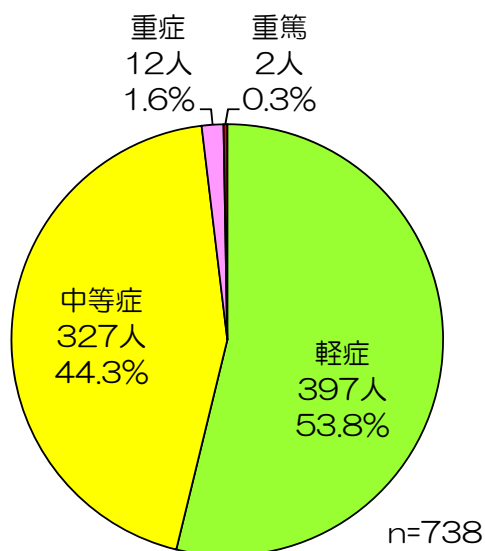


図5 初診時程度別割合

【初診時程度】

- 軽症 入院を要しないもの
- 中等症 生命の危険はないが入院を要するもの
- 重症 生命の危険が強いと認められたもの
- 重篤 生命の危険が切迫しているもの

6 事件事例

カーポートの雪おろし中に受傷

自宅のカーポート（高さ約3メートル）の屋根に乗って雪おろしをしていた際に、塩ビ板を踏み抜き、地上に墜落し受傷した。（73歳男性 重症 平成26年2月）

カーポートの屋根に積もっている雪をとろうと、屋根に上って雪下ろしをしていたところ屋根が壊れ、約2m転落し動けなくなっているのを近所の人が発見して救急要請した。（80歳男性 中等症 平成26年2月）

自転車走行中に転倒

自転車で走行中に凍った路面でタイヤがすべり転倒、左足首を受傷し救急要請した。（73歳男性 中等症 平成27年2月）

散歩中に転倒

7時15分ごろ、散歩中に凍結している路面でバランスを崩して後ろ向きに転倒し後頭部を打撲した。それを目撃した通行人が救急要請した。（81歳男性 重症 平成26年2月）